

2018年11月11日(日)／説教者：神谷武宏

### <子ども祝福式>

説教：「人はパンだけで生きるものではない」

聖書：マタイによる福音書4：1～4

聖書は、「人はパンだけで生きるものではない」と教えている。ここでの「パン」とは食料のこと、お金、経済のことを意味している。イエスが空腹の時、悪魔は「神の子なら石がパンになるように命じたらどうだ」と誘惑する。しかしイエスは、「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」と悪魔を退ける。ただどうだろうか？石をパンに変える業は悪いことなのか？この業を身につけ、フルに活用するならば、自分はいつも腹を満たし、さらにこの世界の飢餓救済に貢献できる。そう考えると悪魔の言っていることは、特に悪い勧めではないように思える。

実は悪魔の誘惑には、その「パン」を自由に活用できるのであれば、民衆を扇動し、自分の思いのままに動かすことが出来るという更なる誘惑へと導こうとしている。いわゆる権力の座に就く誘惑である。

私たちはどうか。「パン」さえあれば、お金さえあれば、何でもできるという誘惑に陥ってはいないだろうか。そういう弱さは私たちにはあるといえる。

インドのカルカッタで貧しい人々のために働いたマザーテレサがいた。ある方からもらった小さな一袋のお米をマザーテレサは、それを半分に分け、イスラム教徒の貧しいご婦人の方にあげたそうである。するとそのお米をもらったご婦人は、そのお米を半分に分けてよそに持って行ったのだ。マザーテレサは、このご婦人にあの半分のお米をどこに持って行ったのかと思い、彼女に尋ねてみると、このご婦人は、私よりも貧しいヒンズー教徒の婦人にあげてきたと応えたそうである。マザーテレサはそのことを聞いてこう語る。「ここに神の国があります」と。この出来事には、お互いに違いはあっても、宗教を越え、民族を越え、国を越えて、分かち合う、助け合うという愛と恵みが見えてくる。

子どもたちは、これから益々成長して行くが、その成長の過程には、様々な誘惑があるもの。その誘惑に陥らないために、イエスは言う、「人はパンだけで生きるものではない」そして「神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」と。(神谷)